

平成27年3月期

# 中間株主通信

平成26年4月1日から平成26年9月30日まで

 日本調剤株式会社

〒100-6737

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
グラントウキョウノースタワー37階

TEL.03-6810-0800 (代表)  
FAX.03-5288-8688

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



 日本調剤株式会社

証券コード：3341

## ■ 日本調剤グループの事業サービス体制

“真の医薬分業”をさらに追求し、最高水準の医療サービスを提供することにより、日本の医療そして社会に貢献してまいります。

### 日本調剤グループの主要事業

#### 調剤薬局事業

門前型／面対応型／メディカルセンターなど多様な形態で全都道府県に500店舗を展開

当社グループはコア事業として調剤薬局事業を展開しております。業界で唯一全都道府県に幅広く展開中の店舗網が、当上半期末には総店舗数500店舗に達しました。また出店形態も、大病院前の門前薬局、面対応薬局、メディカルセンター（医療モール型薬局）など多様化することにより、多くの患者さま・お客さまとの接点を増やすよう努めております。

#### 情報提供・コンサルティング事業

医薬業界の健全な発展・成長に寄与する存在へ

(株)日本医薬総合研究所では、これまで培ってきた膨大な情報資源を活かし、医療業界全般に対する情報提供・コンサルティング事業を展開しております。これからも国民生活の向上に資する価値ある情報や政策提言などを通じて、「Low Cost High Quality」な医療の在り方を追求し、医薬業界の発展に貢献してまいります。

#### 医薬品製造販売事業

ジェネリック医薬品の安定供給体制を着々と構築

ジェネリック医薬品の製造販売を主たる事業としております。平成17年に日本ジェネリック(株)を設立し、平成25年4月には長生堂製薬(株)を当社グループに加えました。ジェネリック医薬品の総販売品目数は561品目に達し、製品ラインアップがさらに充実してまいりました。また、生産設備を拡充するなど、安定供給に向けた体制整備を着実に進めております。

#### 医療従事者派遣・紹介事業

薬剤師を中心に医療従事者全般の人材サービスを展開

調剤薬局事業で培ったノウハウを活用し、(株)メディカルリソースでは薬剤師の派遣・紹介事業を中心に、医師・看護師を含めた医療従事者総合人材サービス事業を全国規模で行っております。近年の在宅医療に対応した業務量の増加等により、薬剤師に対する需要は依然高い状態で推移していることもあり、事業を順調に拡大しております。

#### 平成27年3月期第2四半期累計期間

売上高 **759億70**百万円  
売上高構成比 **82.2%**

#### 平成27年3月期第2四半期累計期間

売上高 **133億89**百万円  
売上高構成比 **14.5%**

#### 平成27年3月期第2四半期累計期間

売上高 **30億10**百万円  
売上高構成比 **3.3%**

※ 当社グループでは「調剤薬局事業」、「医薬品製造販売事業」及び「医療従事者派遣・紹介事業」の3つを報告セグメントとしております。セグメント別売上高及び売上高構成比につきましては、セグメント間の内部売上高または振替高を含めた数値を表示しております。情報提供・コンサルティング事業単独での売上高・営業利益等のデータは開示いたしておりません。



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社平成27年3月期(第35期)第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)における営業概況と今後の戦略につきましてご報告申し上げます。

本年度は2年に一度の改定年度にあたり、本年4月に調剤報酬及び薬価の改定が行われ、同時に消費税率の引き上げも実施されました。当上半期においては、改定直後の決算ということもあり、当社業績に一時的にマイナスの影響を与える状況となりましたが、改定内容の方向性はジェネリック医薬品の使用促進や在宅医療の推進など、当社グループの取り組みとまさに合致するものであると捉えております。

当上半期では、ジェネリック医薬品の数量比率は70%の大台を突破し、一方でつくば工場のS棟もいよいよ稼働間近となってまいりました。ジェネリック医薬品の普及促進と安定供給に向け、日本調剤グループはさらに邁進してまいります。今後とも当社経営に対するご理解・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **三津原 博**

## ■ 営業概況

### ■ 上半期(第2四半期連結累計期間)の業績概括

当上半期においては、4月に消費税率が8%に引き上げられ、医薬品・調剤薬局業界におきましては、4月に調剤報酬及び薬価の改定が行われました。この改定により、売上高及び利益の両面でマイナスの影響を受けましたが、当社グループは改定の方向性に沿って、ジェネリック医薬品の使用促進や在宅医療の推進などに従来にも増して積極的に取り組んでまいりました。

その結果、当上半期の主な連結業績は売上高87,418百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益2,623百万円(同12.2%増)、経常利益2,318百万円(同13.1%増)、四半期純利益1,157百万円(同21.8%増)となり、改定直後の厳しい経営環境下ではありましたが増収増益を達成することができました。

### ■ 事業セグメント別の動向

調剤薬局事業では、引き続き収益性を重視した出店に努めるなか、12店舗の新規出店、6店舗の閉局を行い、総店舗数は500店舗(物販専業1店舗を含む)となりました。調剤報酬につきましては、改定の影響により一時的に減少しましたが、ジェネリック医薬品使用促進による後発医薬品調剤体制加算の積上げなどにより、当上半期末には前年同期水準にまで回復しております。これらの結果、同事業の売上高は75,970百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益は薬価改定直後の影響が大きく、3,113百万円(同14.1%減)となりました。

医薬品製造販売事業におきましては、薬価改定による販売価格の低下はあったものの、一方で診療報酬改定により大病院をはじめ各医療機関でのジェネリック医薬品の使用が進みました。これに加え、当社グループ会社間における連携効果等もあり、同事業の売上高

は13,389百万円(同20.7%増)、営業利益は836百万円(同195.6%増)となりました。なおジェネリック医薬品販売品目数につきましては、6月に新製品9品目を発売するとともに、グループ会社間における重複品目の整理を進めた結果、561品目となりました。

医療従事者派遣・紹介事業では、近年薬剤師の業務が増加傾向にあるなかで、本年の薬剤師国家試験の合格率が低水準であったこともあり、薬剤師派遣に対する需要が増大した結果、同事業の売上高は3,010百万円(同19.8%増)、営業利益は619百万円(同27.2%増)となりました。

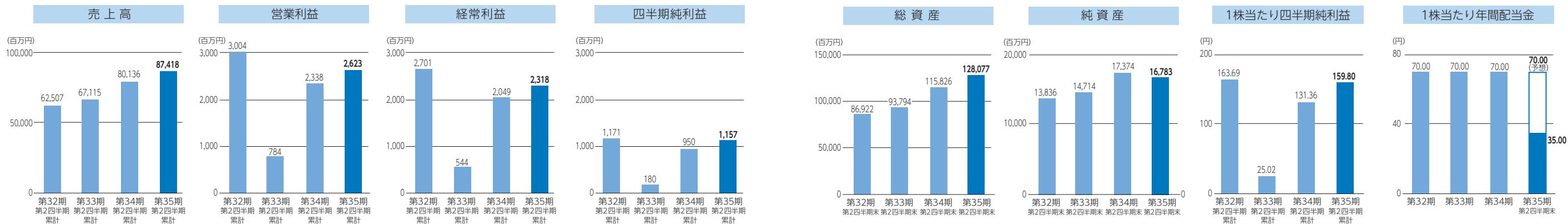
### ■ 株主の皆さまへ

当社は株主の皆さまへの利益還元を経営上の重要課題の一つとして捉え、成長性を確保するための内部留

保も十分に考慮しながらも、各期の経営成績に連動した形で最大限の利益還元を図っていくことを基本方針としております。この方針の下、中間配当金は前年同期と同額の1株当たり35円とさせていただきます。

本年度は2年に一度の改定年度であり、消費税率の引き上げと相俟って大変厳しい事業環境にありますが、今日までの諸施策の奏功により、ジェネリック医薬品数量比率は政府目標の60%を前倒しで達成するに至りました\*。この勢いを緩めることなく、当社グループは“真の医薬分業”の実現に向けてさらに力強く前進してまいります。今後とも日本調剤グループを何卒よろしくお願い申し上げます。

\*詳細につきましてはP5～P6「当社をより深く知っていただくために」をご覧ください。



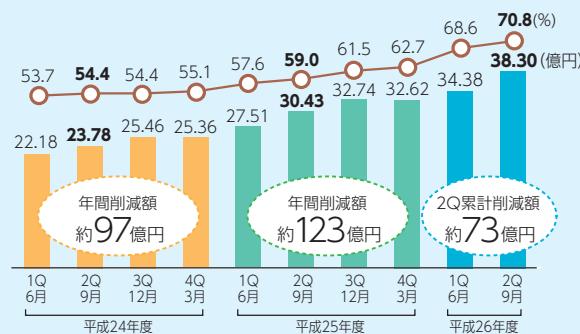
## ジェネリック医薬品の数量比率が70%を突破!

平成24年4月の診療報酬改定時より、処方せんを発行する医療機関に対して「一般名処方加算」が導入され、ジェネリック医薬品へ変更可能な処方せんの受付が増えております。平成25年4月には、厚生労働省より、「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」にて「後発医薬品の数量シェアを平成30年3月末までに、60%以上とする」(60%は新基準\*) 目標が示されております。当社では、薬局から医療機関、患者さまに対する積極的な働きかけも奏功し、ジェネリック医薬品数量比率が平成25年12月に60%の大台を突破いたしました。数量比率はその後も順調に上昇を続け、平成26年9月時点では70.8%となりました。

日本調剤グループは、ジェネリック医薬品のさらなる普及に向け、使用をさらに積極的に進めることで、国民医療費の削減に貢献してまいります。

※平成26年4月からの新基準。ジェネリック医薬品使用可能な薬剤の数量を分母とした実際に使用したジェネリック医薬品の割合

### ■ ジェネリック医薬品新基準数量比率及びジェネリック医薬品への変更による薬剤費削減額 (当社データ)



### 業界トップレベルの品揃え

当社グループのジェネリック医薬品販売品目数は、長生堂製薬(株)のグループ化により大幅に増加し、その後新製品も加え、平成26年9月末時点で561品目と、業界トップレベルの品揃えとなっております。なお平成26年12月には、新たに11品目を薬価収載の予定であります。

### 今年度の新規収載品

- さらに進む製品ラインアップの充実
- 自社グループ承認品目が順調に伸長
- 今年度は6月発売の9品目と合わせ計20品目の新規収載を計画

### ■ 平成26年6月 薬価基準収載品 (9品目)

名称	名称
バルサルタン錠20mg [JG]	ロサルヒド配合錠LD [JG]
バルサルタン錠40mg [JG]	シロスタゾールOD錠50mg [JG]
バルサルタン錠80mg [JG]	シロスタゾールOD錠100mg [JG]
バルサルタン錠160mg [JG]	フェキサフェナジン塩酸塩OD錠60mg [YD]
レボフロキサシ点眼液1.5% [JG]	

### ■ 平成26年12月 薬価基準収載予定品 (11品目)

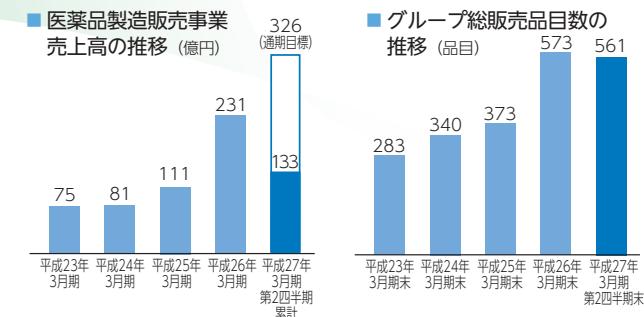
名称	名称
カンデサルタン錠2mg [JG]	エチゾラム錠0.25mg [JG]
カンデサルタン錠4mg [JG]	トリクロルメチアジド錠2mg [JG]
カンデサルタン錠8mg [JG]	カルベジロール錠10mg [JG]
カンデサルタン錠12mg [JG]	カルベジロール錠20mg [JG]
レボフロキサシ錠250mg [CH]	イトプリド塩酸塩錠50mg [CH]
レボフロキサシ錠500mg [CH]	

### 売上高・品目数ともに急成長

- 重要な成長ドライバー「医薬品製造販売事業」
- グループ会社間の連携/シナジーの追求
- 当社グループ外への拡販も順調に拡大

### フルライン・ジェネリックメーカーとしての成長

“真の医薬分業”の実現を目指す当社グループにとって、ジェネリック医薬品の製造販売事業の強化は最重要テーマの一つです。平成17年の事業開始に始まり、今日ではグループ会社間での連携強化もさらに深まり、フルライン・ジェネリックメーカーとして順調に業容を拡大することができております。



ジェネリック医薬品市場の拡大を的確に捉え、ジェネリック医薬品の安定供給体制の拡充を推し進めてまいります

### つくば工場S棟がよいよ稼働

ジェネリック医薬品メーカーに対しては、高い水準の品質維持に加え、安定供給体制の整備構築が厳しく求められております。こうした状況を踏まえ当社では、昨年度よりつくば工場S棟の設備増強を進めてまいりましたが、第I期分がまもなく完了する予定です。



つくば工場S棟

### 生産設備の整備・拡充

- ジェネリックメーカーの使命「安定供給」
- 市場拡大にあわせて生産能力増強を強力に推進
- 自社製造品の増加による収益性の改善

## トピックス ～日本調剤グループの地域との関わり方～

日本調剤では、「世界アルツハイマーデー」がある9月を“認知症を知る月間”として、社員を対象とした普及啓発活動「認知症サポーター養成講座」を開催いたしました。「認知症サポーター」は、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活動していきます。また、友人や家族に学んだ知識を伝える／認知症になった方や家族の気持ちを理解する、ということも活動の一つです。当社は、厚生労働省とNPO法人「地域ケア政策ネットワーク」が推進する「認知症サポーター100万人キャラバン」に参画し、認知症に関する理解を深めていくとともに、認知症の方が安心して暮らせる環境づくりに貢献してまいります。

### 認知症の方が安心して暮らせる環境づくりに貢献 「認知症サポーター養成講座」を開催



認知症サポーター養成講座



「認知症の方を支援します」という意思を示す目印として認知症サポーターに渡される「オレンジリング」

日本調剤では本年8月下旬より、希望者が自己採取した血液を薬局内で簡易検査する健康イベント「日本調剤健康フェア簡易血液検査イベント」を開催しております。このイベントでは血糖値と脂質の2項目の検査が可能で、採取した検体は専門の分析機器にかけられ約6分で分析が終了、その場で検査された方に結果をお伝えします。これからも日本調剤は、地域における健康管理拠点としての調剤薬局のあり方を見つめ直し、地域の皆さまの健康サポートに努めてまいります。

### 生活習慣病の早期発見・健康づくりの手軽なきっかけに 「健康フェア簡易血液検査イベント」の開催



血液分析機器

内容：簡易血液検査（分析時間約6分）  
検査項目：①血糖値（HbA1c）  
②脂質（中性脂肪 HDL/LDLコレステロール）  
※①②のうち1項目または2項目をお選びいただくことができます  
検査費用：1項目検査1,000円、2項目検査1,500円（ともに税込）  
検査時間：自己採取した血液を専用分析器により約6分で判明、その場で検査数値をお渡します

日本調剤では、全ての店舗で在宅医療に対応したサービスを提供する体制を早期に構築するとの方針の下、7月に約500人の当社薬剤師を対象に在宅医療の集合研修を実施いたしました。この研修では、栄養療法や医薬品としての栄養剤の取り扱い、胃ろうケアなどについて講義形式だけでなく、実際のケア方法なども実習いたしました。医療・衛生材料がどのように使われているのか、実技を含めて薬剤師が知識を獲得することはとても重要であり、大変意義深い研修となりました。

### 全ての店舗での在宅医療への対応実現に向けて 「在宅研修会」を実施



日本調剤では、日本の未来を担う世代に、医療に携わる薬剤師の仕事や調剤薬局の役割を知ってもらうため、毎年、小学生から高校生を対象とした「職場体験プログラム」を展開しております。今夏は、横浜支店が神奈川県横須賀地区の「高校生インターンシップ」に協力する形で高校生を受け入れたほか、瀬戸山口薬局（愛知県）・原町薬局（群馬県）では、それぞれ地元の小中学生が職場体験プログラムに参加されました。当社ではこれら一連の活動を、全国各地域に根ざした大切な社会活動の一環として捉え、今後も積極的に行ってまいります。

### 小学生から高校生にも学びの場を提供 日本調剤の「職場体験プログラム」



## ■ 連結財務諸表

四半期連結貸借対照表			単位：百万円		
科目	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	前期末 (平成26年3月31日現在)	科目	当第2四半期末 (平成26年9月30日現在)	前期末 (平成26年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
① 流動資産	61,127	53,373	流動負債	50,195	55,666
現金及び預金	17,115	15,429	支払手形	2,650	2,102
受取手形	1,210	1,270	買掛金	31,404	26,861
売掛金	18,163	17,395	短期借入金	3,950	7,750
商品及び製品	17,153	12,165	一年内償還予定の社債	—	7,000
仕掛品	938	751	一年内返済予定の長期借入金	4,950	3,889
原材料及び貯蔵品	3,282	3,480	未払法人税等	1,052	1,507
その他	3,273	2,889	賞与引当金	1,936	1,793
貸倒引当金	△9	△8	役員賞与引当金	9	74
② 固定資産	66,950	63,921	売上割引当金	140	102
有形固定資産	45,575	42,123	その他	4,101	4,584
建物及び構築物	13,907	13,990	固定負債	61,099	45,779
土地	15,460	15,318	社債	7,000	7,000
建設仮勘定	10,193	7,076	長期借入金	49,328	35,165
その他	6,012	5,738	役員退職慰労引当金	841	907
無形固定資産	10,643	11,103	退職給付に係る負債	595	915
投資その他の資産	10,731	10,694	その他	3,333	1,789
③ 資産合計	128,077	117,295	④ 負債合計	111,294	101,446
			<b>純資産の部</b>		
			株主資本	16,681	15,845
			資本金	3,953	3,953
			資本剰余金	4,754	4,754
			利益剰余金	10,497	9,310
			自己株式	△2,523	△2,171
			その他の包括利益累計額	101	3
			その他有価証券評価差額金	311	237
			退職給付に係る調整累計額	△209	△234
			⑤ 純資産合計	16,783	15,849
			負債・純資産合計	128,077	117,295

### ① Point

- ① 流動資産は61,127百万円となり、前連結会計年度末に対して7,753百万円、14.5%の増加となりました。主な要因としては、商品及び製品の増加等でありました。
- ② 固定資産は66,950百万円となり、前連結会計年度末に対して3,028百万円、4.7%の増加となりました。主な要因は、建設仮勘定の増加等でありました。
- ③ 当第2四半期連結会計期間末における総資産は128,077百万円となり、前連結会計年度末に対して10,782百万円、9.2%増加いたしました。
- ④ 負債は111,294百万円となり前連結会計年度末に対して9,848百万円、9.7%の増加となりました。主な要因としては、買掛金、長期借入金の増加等でありました。
- ⑤ 純資産は16,783百万円となり前連結会計年度末に対して934百万円、5.9%の増加となりました。

四半期連結損益計算書				単位：百万円	
科目	当第2四半期(累計) (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	前第2四半期(累計) (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	前期(ご参考) (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)		
売上高	87,418	80,136	165,347		
売上原価	72,571	67,575	139,723		
売上総利益	14,846	12,560	25,623		
販売費及び一般管理費	12,223	10,222	20,878		
営業利益	2,623	2,338	4,744		
営業外収益	333	228	508		
営業外費用	637	517	1,064		
経常利益	2,318	2,049	4,188		
特別利益	0	19	22		
特別損失	29	80	235		
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,289	1,988	3,975		
法人税、住民税及び事業税	988	1,087	2,147		
法人税等調整額	143	△59	△41		
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	1,157	960	1,870		
少数株主利益又は少数株主損失(△)	—	9	△31		
四半期(当期)純利益	1,157	950	1,901		

### ① Point

- ① 当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に対して1,682百万円増加して、16,710百万円となりました。
- ② 営業活動によるキャッシュ・フローは1,502百万円の収入となりました。主な収入項目は税金等調整前四半期純利益2,289百万円、仕入債務の増加額5,089百万円であり、主な支出項目はたな卸資産の増加額4,976百万円、法人税等の支払額1,434百万円でありました。
- ③ 投資活動によるキャッシュ・フローは3,394百万円の支出となりました。主な支出項目は、調剤薬局事業の新規出店及び医薬品製造販売事業の生産設備への投資を主とした有形固定資産の取得による支出2,930百万円でありました。
- ④ 財務活動によるキャッシュ・フローは3,575百万円の収入となりました。主な収入項目は長期借入れによる収入17,200百万円でありました。一方、主な支出項目は社債の償還による支出7,000百万円、短期借入金の減少3,800百万円でありました。

四半期連結包括利益計算書				単位：百万円	
科目	当第2四半期(累計) (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	前第2四半期(累計) (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	前期(ご参考) (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)		
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	1,157	960	1,870		
その他の包括利益	98	△168	△112		
退職給付に係る調整額	24	—	—		
その他有価証券評価差額金	74	△168	△112		
四半期(当期)包括利益	1,256	792	1,758		
(内訳)					
親会社株主に係る四半期(当期)包括利益	1,256	782	1,789		
少数株主に係る四半期(当期)包括利益	—	9	△31		

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

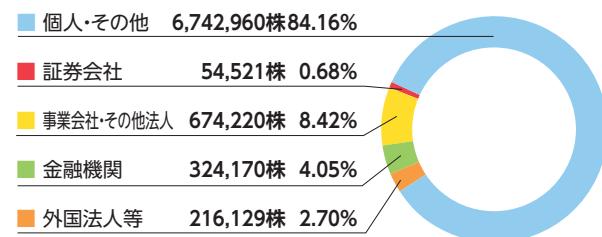
四半期連結キャッシュ・フロー計算書				単位：百万円	
科目	当第2四半期(累計) (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	前第2四半期(累計) (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	前期(ご参考) (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)		
② 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,502	1,672	6,243		
③ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,394	△6,848	△14,510		
④ 財務活動によるキャッシュ・フロー	3,575	7,771	8,782		
現金及び現金同等物の増減額	1,682	2,595	514		
現金及び現金同等物の期首残高	15,027	14,513	14,513		
① 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	16,710	17,108	15,027		

## ■ 株式及び会社データ (平成26年9月30日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	22,096,000株
発行済株式の総数	8,012,000株
株主数	6,709名

### 所有者別株式分布状況



(注) 1. 当社所有の自己株式835,704株については、個人・その他を含めております。  
2. 比率については、小数点第3位を四捨五入しております。

### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
三津原 博	2,340,000	29.20
三津原 庸介	1,660,000	20.71
有限会社マックスプランニング	560,000	6.98
日本調剤従業員持株会	250,650	3.12
三津原 陽子	200,000	2.49
三津原 恵子	200,000	2.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	87,200	1.08
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジェイピーアールディ アイエスジー エフイーイーエス	55,647	0.69
ビーエヌワイエム エスエーエヌパイ ビーエヌワイエム クライアント アカウント エムピーシーエス ジャパン	49,660	0.61
メロン パンク トリーティー クライアント オムニバス	33,950	0.42

(注) 1. 当社所有の自己株式835,704株は上記大株主から除いております。  
2. 出資比率については、小数点3位以下を切り捨てしております。

### 株主メモ

● 事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
● 期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
● 中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
● 定時株主総会	毎年6月
● 株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
● 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)
● 上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
● 公告の方法	○電子公告 公告掲載URL <a href="http://www.nicho.co.jp/">http://www.nicho.co.jp/</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。

(ご注意)  
1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。  
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。  
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 会社概要

商号	日本調剤株式会社	取締役	代表取締役社長	三津原 博
設立	昭和55年3月		常務取締役	鎌田 良樹
本社所在地	〒100-6737 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウノースタワー37階 03-6810-0800(代表)		常務取締役	見田 元
資本金	39億5,302万円		取締役	宮田 徳昭
連結売上高	1,653億円 (平成26年3月期)		取締役	鈴木 重夫
従業員数	正社員2,443名 パート他654名 ※パート他は8時間換算に基づく 平均雇用人数であります。 ※平成26年3月31日現在		取締役	小柳 利幸
事業形態	保険調剤薬局チェーンの経営	監査役	監査役	中川 義雄
			監査役(非常勤)	薄金孝太郎
			監査役(非常勤)	長嶋 隆

### お知らせ

#### 単元株式数の変更について

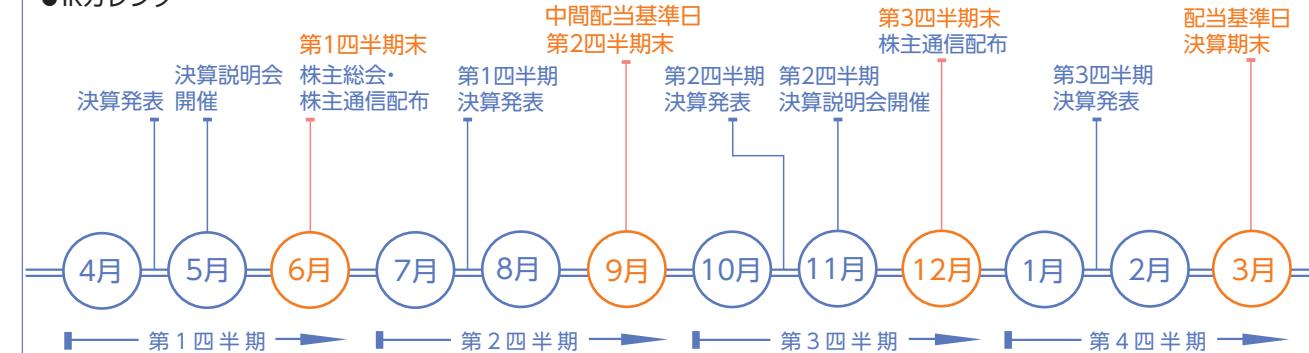
全国証券取引所が公表した、「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨に鑑み、当社単元株式数を10株から100株に変更いたしました。これに伴う株式分割は実施いたしておりません。

また、上記変更に伴い、平成26年7月1日(火)をもって、東京証券取引所における当社株式の売買単位も10株から100株に変更されております。

#### 単元未満株式の取扱いについて

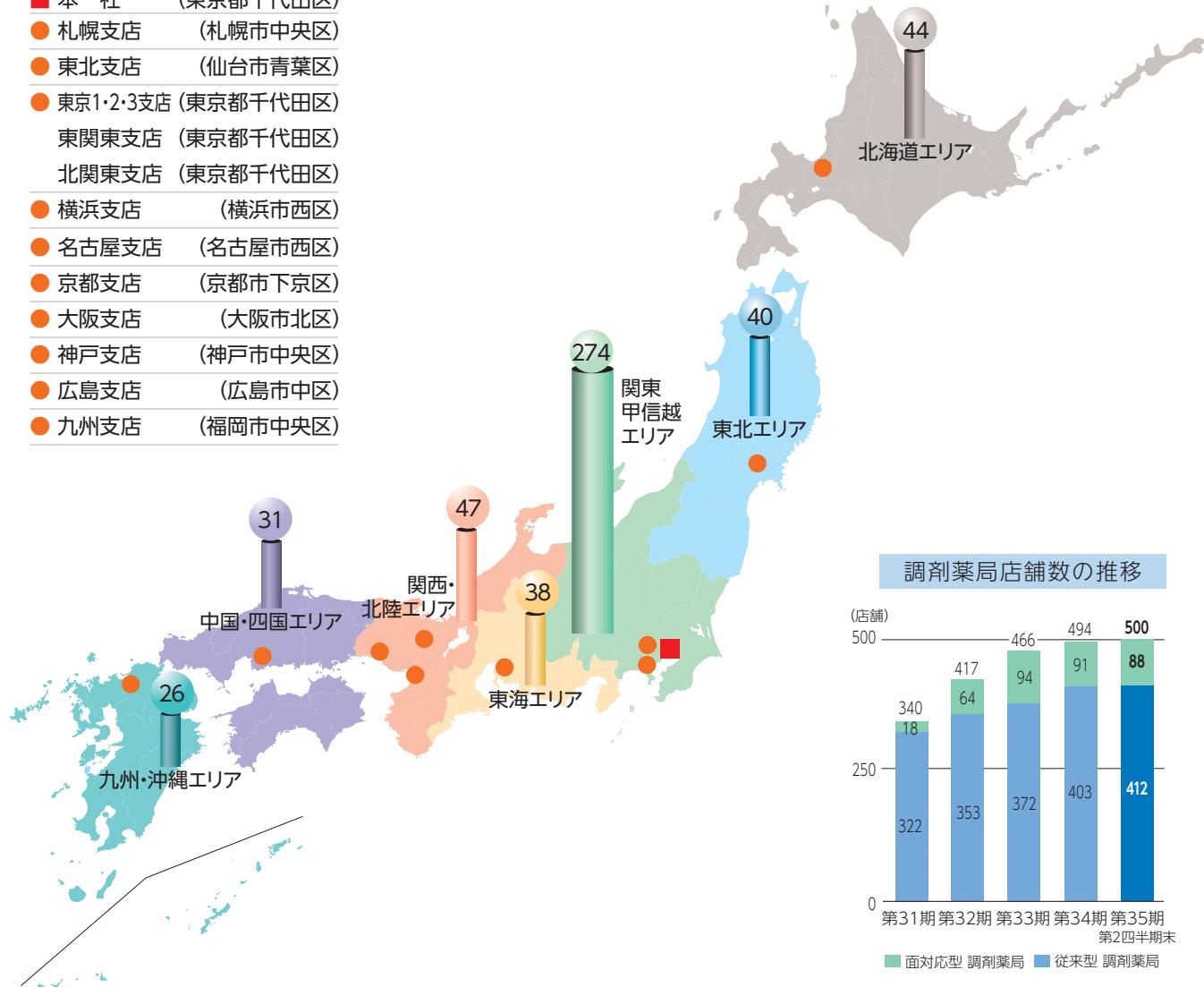
単元株式数の変更に伴い、100株未満の株式は単元未満株式となります。単元未満株式をご所有の株主様は、取引所市場にてご所有の単元未満株式を売買することはできませんが、単元未満株式の買取制度をご利用いただくことが可能であります。具体的なお手続きにつきましては、証券会社の口座で当社株式をご所有の株主様は、お取引のある証券会社へ、特別口座でご所有の株主様は、特別口座の管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社まで、それぞれお問い合わせください。

### ● IRカレンダー



## ■ 日本調剤ネットワーク (平成26年9月30日現在)

- 本 社 (東京都千代田区)
- 札幌支店 (札幌市中央区)
- 東北支店 (仙台市青葉区)
- 東京1・2・3支店 (東京都千代田区)
- 東関東支店 (東京都千代田区)
- 北関東支店 (東京都千代田区)
- 横浜支店 (横浜市西区)
- 名古屋支店 (名古屋市西区)
- 京都支店 (京都市下京区)
- 大阪支店 (大阪市北区)
- 神戸支店 (神戸市中央区)
- 広島支店 (広島市中区)
- 九州支店 (福岡市中央区)



### 当社ホームページのご紹介

当社では、IR専用のホームページを設けて、決算情報等のIR関連の情報をタイムリーに配信しております。また、株主・投資家の皆さま専用のお問い合わせフォームもございますので、お気軽にご利用ください。

トップページのアドレスはこちらです。

<http://www.nicho.co.jp/>



### 企業情報ページでは・・・



主要4事業の内容等について詳しくご説明しています。

### IR情報ページでは・・・



開示情報ごとにタグを付け、決算情報をより分かりやすく検索できるようになりました。